【資料１】

▲京都大学学位規程

昭和33年1月28日
達示第1号制定

第1条　本学において授与する学位は、学士、修士、博士、修士(専門職)及び法務博士(専門職)とする。

2　学士の学位を授与するに当たつては、次の区別に従い、専攻分野の名称を付記する。

総合人間学部　総合人間学
文学部　文学
教育学部　教育学
法学部　法学
経済学部　経済学
理学部　理学
医学部　医学
　　人間健康科学
薬学部　薬科学
　　薬学
工学部　工学
農学部　農学

3　修士の学位を授与するに当たつては、次の区別に従い、専攻分野の名称を付記する。

文学研究科　文学
教育学研究科　教育学
法学研究科　法学
経済学研究科　経済学
理学研究科　理学
医学研究科　医科学
　　人間健康科学
薬学研究科　薬科学
　　薬学
工学研究科　工学
農学研究科　農学
人間・環境学研究科　人間・環境学
エネルギー科学研究科　エネルギー科学
アジア・アフリカ地域研究研究科　地域研究
情報学研究科　情報学
生命科学研究科　生命科学
地球環境学舎　地球環境学

4　博士の学位を授与するに当たつては、次の区別に従い、専攻分野の名称を付記する。

文学研究科　文学
教育学研究科　教育学
法学研究科　法学
経済学研究科　経済学
理学研究科　理学
医学研究科　医学
　　医科学
　　社会健康医学
　　人間健康科学
薬学研究科　薬科学
　　薬学
工学研究科　工学
農学研究科　農学

人間・環境学研究科　人間・環境学
エネルギー科学研究科　エネルギー科学
アジア・アフリカ地域研究研究科　地域研究
情報学研究科　情報学
生命科学研究科　生命科学
総合生存学館　総合学術
地球環境学舎　地球環境学

5　修士(専門職)の学位を授与するに当たつては、次の区別に従い、専攻分野の名称を付記する。

医学研究科　社会健康医学
公共政策教育部　公共政策
経営管理教育部　経営学

6　別表第2に定める学位プログラムを履修する者のうち、当該学位プログラムが実施する博士論文研究基礎力審査に合格した者に修士の学位を授与するに当たつては、第3項の規定にかかわらず、専攻分野の名称として総合学術を付記し、又は同項の規定による専攻分野の名称を付記し、及び学位記に当該博士論文研究基礎力審査に合格したことを記すことができる。

7　別表第2に定める学位プログラムを修了した者に博士の学位を授与するに当たつては、第4項の規定にかかわらず、専攻分野の名称として総合学術を付記し、又は同項の規定による専攻分野の名称を付記し、及び学位記に当該学位プログラムを修了したことを記す。

(昭61達7加・平3達22加・削・平4達5改・達38加・達63改・削・平5達61加・平9達47加・平10達86・平11達23・平12達15改・平14達38加・平16達122改・平17達145改・加)
(平18達62・平19達14・平22達2・平24達38・平25達23・一部改正)

第2条　本学大学院の課程(京都大学通則(昭和28年達示第3号。以下「通則」という。)第53条の2の専門職学位課程を除く。)の修了による学位の授与を受けようとする者は、所定の学位論文審査願に学位論文及び論文目録を添えて、当該研究科長に提出するものとする。ただし、博士の学位の授与を受けようとするときは、更に履歴書を添えなければならない。

2　通則第55条第2項の規定により修士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位論文審査願に修士論文及び論文目録を添えて、当該研究科長に提出するものとする。

(昭34達9・昭51達30・平4達5改・平9達10加・平12達15・平14達38改・平16達122改)
(平18達39・一部改正)

第3条　前条によらないで博士の学位の授与を申請する者は、所定の学位申請書に学位論文、論文目録、履歴書及び学位論文審査手数料を添えて、総長に提出するものとする。

2　前項の学位論文審査手数料の額は、京都大学における学生納付金に関する規程(平成16年達示第63号)第7条に定める額とする。

3　受理した学位論文審査手数料は、返還しない。

(昭34達9・昭51達30改・平4達63加・平13達17改・平16達122改)

第4条　第2条の学位論文審査願及び前条の学位申請書を受理したときは、総長又は研究科長は、これを当該教授会又は研究科会議(総合生存学館にあつては学館会議、地球環境学舎にあつては学舎会議をいう。以下同じ。)に付託するものとする。

(昭51達30本条加・平14達38改・平16達122改)
(平25達23・一部改正)

第5条　学位論文(修士論文又は博士論文)は1編とする。ただし、参考として他の論文を添えることができる。

2　審査のため必要があるときは、教授会又は研究科会議は、学位論文の副本、訳本、模型又は標本等の材料を提出させることができる。

(昭51達30改・平16達122改)
(平26達8・一部改正)

第6条　教授会又は研究科会議は、当該教授会又は研究科会議を構成する教授の中から調査委員3名を選定して、論文についての調査及び試験(以下この条において「論文の調査等」という。)を行わせる。

京都大学理学部理学科

平成27年3月3日作成

京都大学　理学部（理学科）のディプロマポリシー

DP1:	DP2:	DP 3:	DP4:	DP5:
理学の基礎体系を修得する	理学における個々の知識を総合化し､自ら考え、新しい知を吸収し創造的に展開する姿勢を備えている	日常的な科学・技術の諸課題について理学の知識を用いて、科学的な解決方法を構想できる	理学の意義と重要性を理解し、その発展に寄与することを目指した行動ができる	理学に関する課題に取り組むための幅広い視野と教養を身につけ、異なる文化・分野の人々ともコミュニケーションできる

緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

	数理科学系	物理科学系	地球惑星科学系	化　学　系	生物科学系
４回生（応用科目）	数学講究	課題研究（P, Q, S）	課 題研究（T）	課題研究	課題研究
３回生（発展科目）	代数学Ⅰ・Ⅱ　代数学演義Ⅰ・Ⅱ 幾何学Ⅰ・Ⅱ　幾何学演義Ⅰ・Ⅱ 解析学Ⅰ・Ⅱ　解析学演義Ⅰ・Ⅱ 函数解析学　数値解析 微分方程式論　計算機科学 複素函数論	課題演習（A, B, C） 物性物理学 素粒子物理学 原子核物理学 宇宙物理学	課題 演習 地球 電磁気学、気象・気候・ 海洋 物理学、固体地球物理学、 地球 惑星史基礎論、地球惑星 物質 科学基礎論、地質科学表 層プ ロセス基礎論、地質科学 内部 プロセス基礎論	化学実験Ａ・Ｂ 物理化学ⅢＡ・ⅢＢ 無機化学ⅡＡ・ⅡＢ 物性化学Ⅰ・Ⅱ 有機化学Ⅱ・Ⅲ 生物化学Ⅱ・Ⅲ 量子化学Ⅱ　分析化学Ⅱ	生物学実習 生物学セミナー ミクロ生物学系専門科目 マクロ生物学系専門科目

系　登　録

２回生（基礎科目）	**数理科学系**　代数学入門　幾何学入門　集合と位相　数学基礎演習Ⅰ・Ⅱ **物理科学系**　解析力学　電磁気学　量子力学　統計 力学　物理数学 **地球惑星科学系**　地球物理学概論　地球連続体力学　地 質科学概論Ⅰ・Ⅱ　グローバルテクトニクス **化学系**　物理化学Ⅰ・Ⅱ　無機化学Ⅰ　有機化 学ⅠＡ・ⅠＢ　生物化学Ⅰ　量子化学Ⅰ　分析化学Ⅰ　入門化学実験 **生物科学系**　ミクロ生物学系専門科目、マクロ生物 学系専門科目、基礎生物学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

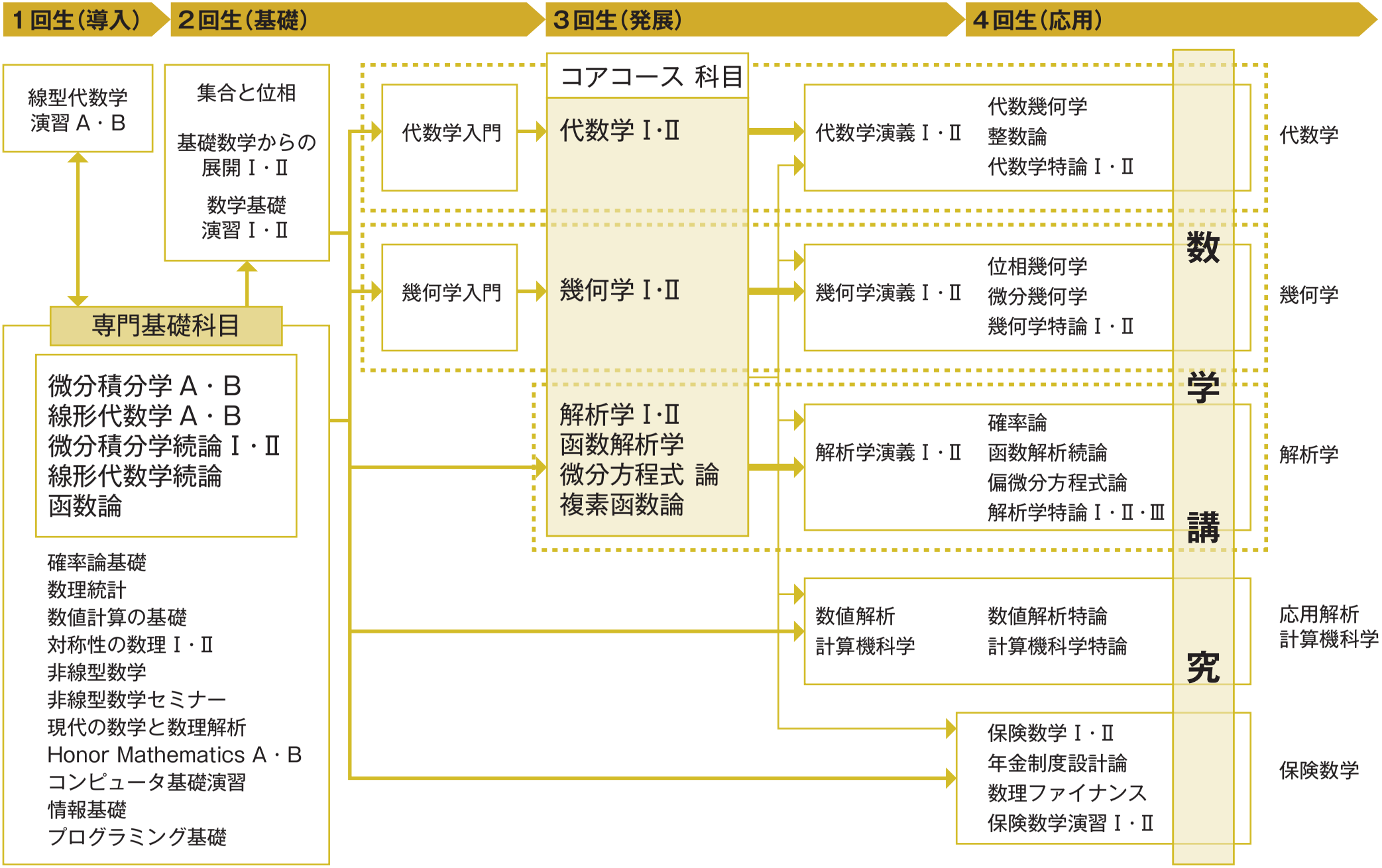
緩やか な専門化

１回生（導入科目）	**全学共通科目** 人文・社会化学系科目群 自然・応用化学系科目群 外国語科目群 現代社会適応科目群 拡大科目群 専門基礎科目（微分積分学　線 形代数学　物理学基礎論Ａ・Ｂ　物理学実験　基礎地球科学　地球科学実験　基礎物理化学Ⅰ・Ⅱ　基礎有機 化学Ⅰ　基礎化学実験　生物学のフロンティア　基礎生物学Ⅰ･Ⅱ　生物学実習）

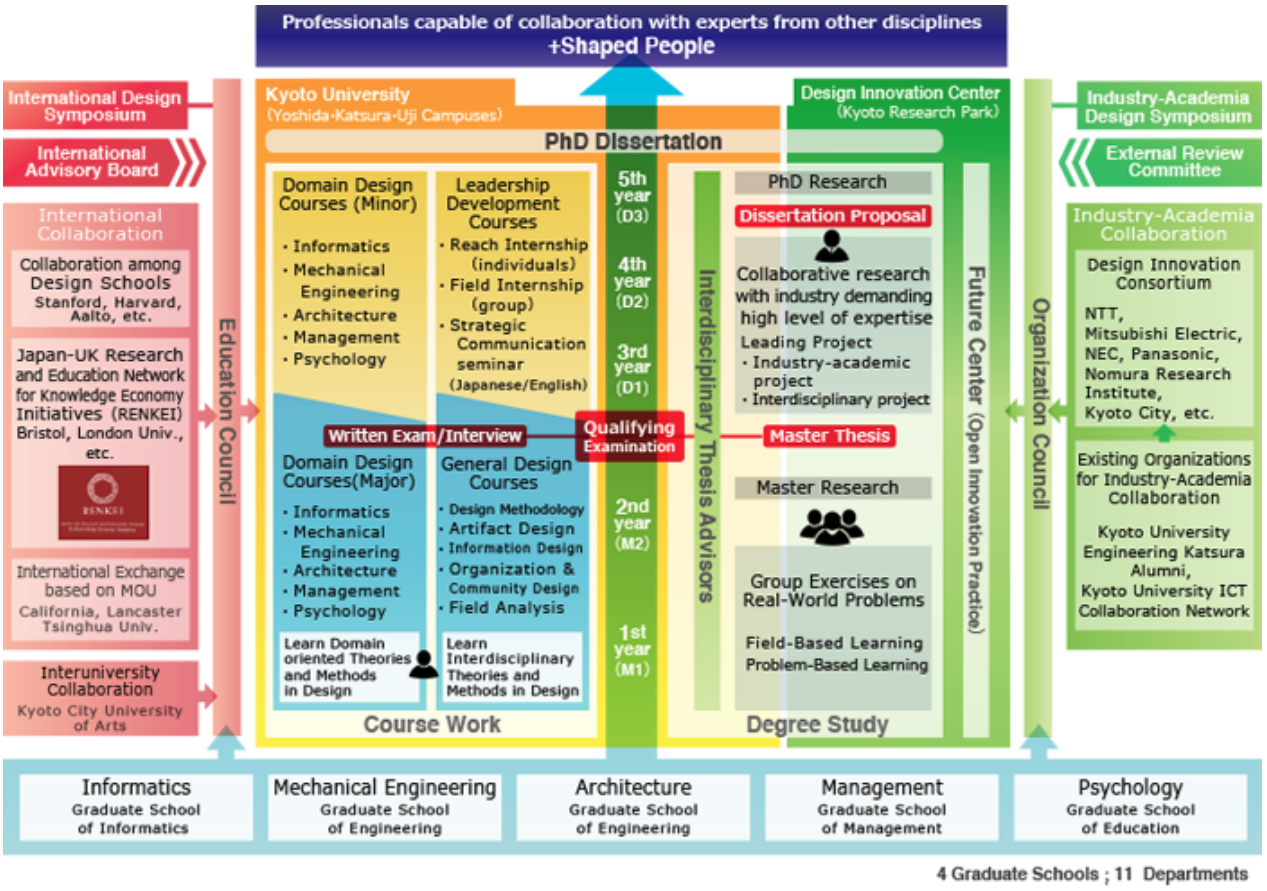
【事例１】

京都大学理学部理学科　数理科学系

平成27年3月3日作成



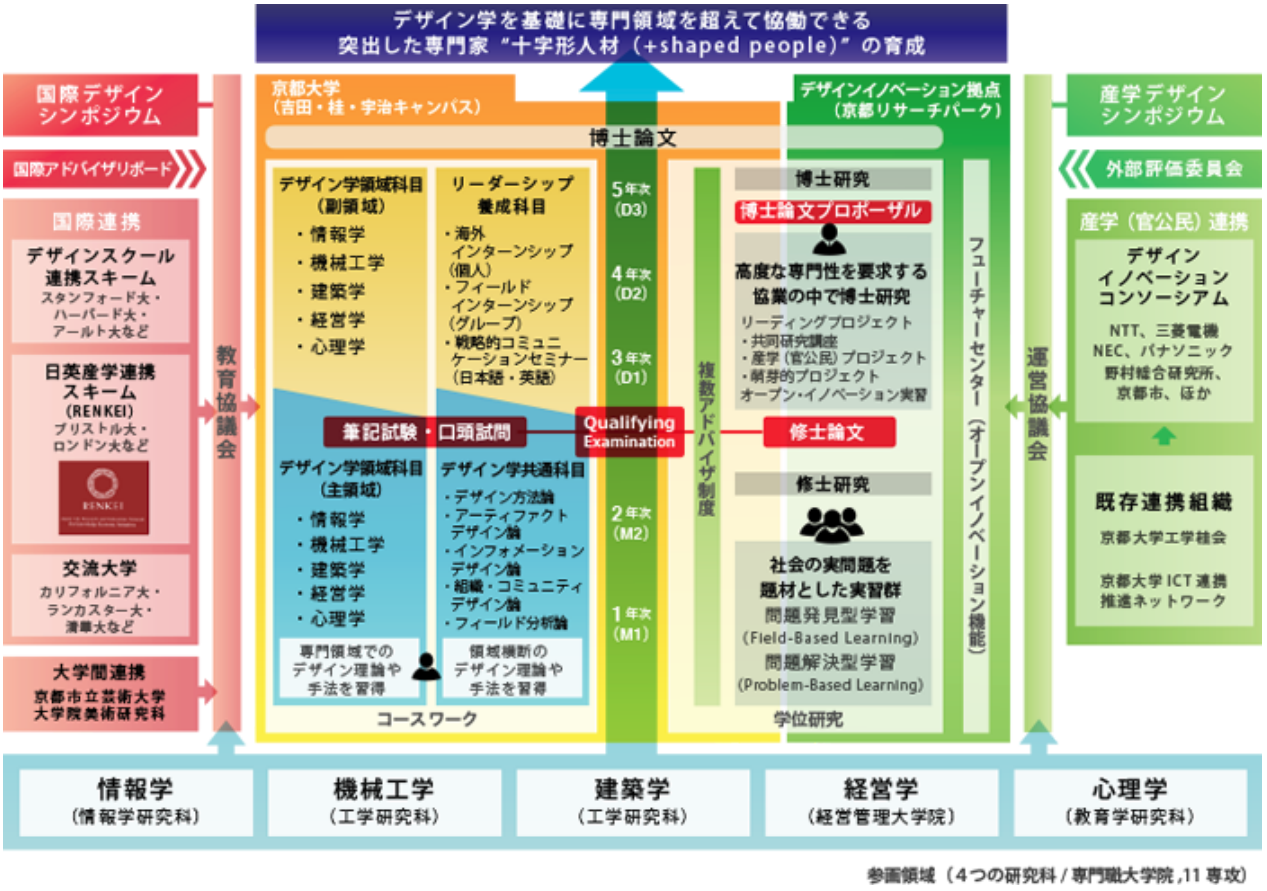
OVERVIEW



Our Collaborative Graduate Program in Design consists of coursework and graduate degree research.
The coursework includes general design courses, domain design courses, and leadership development programs.
The general design courses are: 1. Abstract Design Theory—which allows students to discuss what design is; 2. General Design Theory—which explores the basis of cross-disciplinary design, including design of artifacts, markets, organizations, communities, and information; and 3. General Design Method—which covers tools that support cross-disciplinary design, such as ethnography, data analysis, modeling, and simulation. All courses are newly offered in this program and incorporate teaching techniques aimed at providing students with a wide variety of interpretations rooted in diverse perspectives, such as a collaborative lecture system where professors from different faculties lecture in the same class.
The domain design courses consist of five specialized disciplines: informatics, mechanical engineering, architecture, management, and psychology. The courses are selected from existing courses in each domain and are reorganized with new elements added to form the foundation of design for each area. These courses may be taken as either a major or a minor, since they do not follow the established learning track of each specialized discipline, and instead focus on how each discipline contributes to design. For example, the domain design courses in informatics consist of subjects such as: 1. Informatics as a Design Tool—which supports data analysis; 2. Informatics as a Design Principle—which examines optimization and control theory contributing to the formation of social system models; and 3. Informatics as Design Experience—which focuses on how smart phones and SNS contribute to innovation. Students can freely select subjects that match their study purposes.
The leadership development programs include: Overseas Research Internships, Field Internships, and Strategic

Communication Seminars, all of which allow students to foster their international and practical research skills.
The Overseas Research Internships are already being run by all participating departments, which have pooled together their experiences and expertise in providing pre-/post-internship training.
The Field Internships, which represent our first attempt to exploit the power of field education, send teams of students from various specialties to work together in the field for several months. These internships aim to build leadership skills through group activities, unlike traditional research internships where only one individual plays the central role. Although this new endeavor has not been put into full swing yet, we have already completed many preparations, including the publication of a textbook called “Field Informatics” in both Japanese and English.
The Strategic Communication Seminars are short-term English and Japanese courses that enhance communication skills. The English course, which was established with the cooperation of Berlitz Japan, Inc., aims to improve English presentation and speaking skills with rich content provided by Berlitz. The Japanese course was jointly developed with NHK-Communications Training Institute, and is led by NHK’s executive TV anchors, who train skills in speaking, negotiation and reporting.
The other half of our program—graduate degree research—is founded on the aspiration to identify and solve real-world problems.
Master’s and doctoral research is conducted under the supervision of a multidisciplinary advisory committee. Doctoral research in particular entails collaboration in leading projects that address a real-world challenge (joint research laboratories, academia-industry-government-public-citizen projects, and emerging projects) and demands a high level of specialization.
As the groundwork for this research, students take two types of courses: Field-based Learning, which involves identifying social problems or social expectations, and Problem-based Learning, in which students try to discover solutions to problems by themselves. In both cases, teams are formed by students from different disciplines.
Half of the training topics are real-world problems that faculty members are researching, such as dissemination of renewable energy and redesign of urban areas, while the other half are challenges raised by companies, local governments, non-governmental organizations, or communities. The student teams endeavor to resolve these problems based on collaboration with the individuals or groups that raised them.
Furthermore, students undergo an Open Innovation Practice that gives them hands-on experience in identifying and solving real-world problems. Specifically, they build a team of experts or stakeholders for open innovation, and hold a series of workshops in order to achieve their goal. The role of the students is not to simply be a specialist participating in the discovery or resolution of problem, but to form a professional team and manage the open innovation process. Through this experience, students can enhance their communication and management skills, understand design theories, and master design methods for successful design activities.

履修ガイド(jp) (pdf)



デザイン学のカリキュラムは、コースワークと学位研究から構成されています。コースワークは、デザイン学に関わる共通科目と領域科目、さらにリーダーシップ養成科目からなります。

デザイン学共通科目の講義には、①デザインとは何かを議論する「一般デザイン理論」、②人工物、市場、組織、コミュニティ、情報のデザインなど、領域横断的なデザインの基礎となる「共通デザイン理論」、③エスノグラフィ、データ分析、モデリング、シミュレーションなど、広領域のデザインを支える「共通デザイン手法」があります。全ての科目が新規開講です。講義の実施形態としては、異なる専門領域の教員が同時に教壇に立つ「協奏型の講義」を導入するなど、異なる専門の視点から教材の多様な解釈を学生に提示することを試みられます。

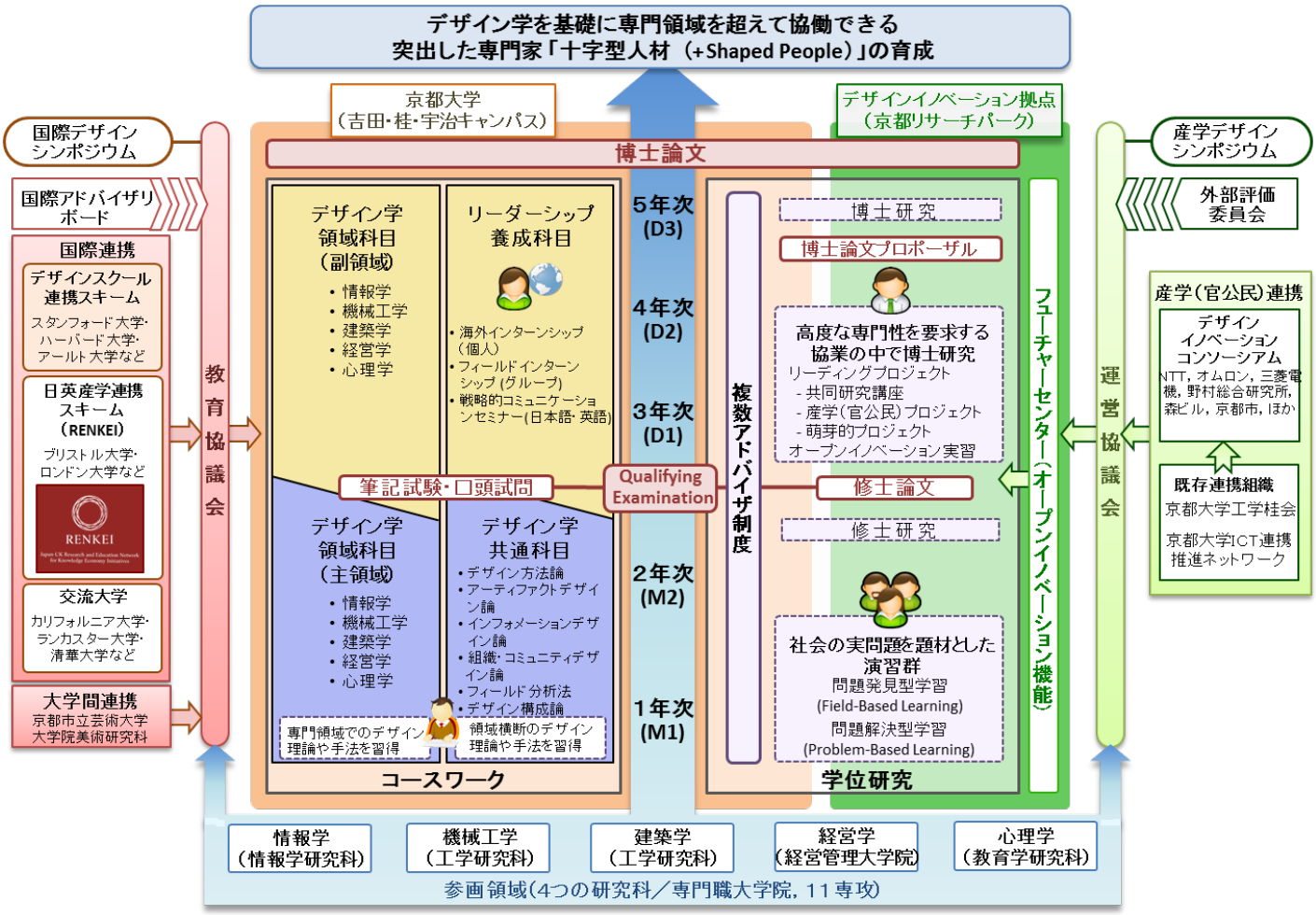
デザイン学領域科目は、情報学、機械工学、建築学、経営学、心理学の5領域の科目からなります。それぞれの専門領域でのデザインに関わる科目群で、既存科目から抽出された科目に、各領域でのデザインの考え方を説く新規開講科目を加えて再編したものです。デザイン学領域科目は主領域としても副領域としても選択可能です。そのため、各領域の学問体系に添って教育するのではなく、各専門領域がデザインにどう寄与するかに着目して体系化されています。例えば、情報学の領域科目は、①データ分析に寄与する機械学習などの「デザインツール（Informatics as a Design Tool）」、②社会システムのモデル構築に寄与する最適化理論、制御理論などの「デザイン原理（Informatics as a DesignPrinciple）」、③イノベーションに寄与するSNS、スマートフォンなどの「デザイン体験（Informatics as Design Experience）」に分類され、受講者の履修目的によって選択可能としています。

リーダーシップ養成科目には、海外インターンシップ、フィールドインターンシップ、戦略的コミュニケーションセミナーがあり、国際的かつ実践的研究の感覚を磨くことができます。

海外インターンシップは、本プログラムのすべての参画部局において、これまでも実施されており、海外体験学習の事前・事後教育を含めた組織的な実践実績・ノウハウが蓄積されています。これに対しフィールドインターンシップは、「現場の教育力」を活用する新たな試みで、専門領域の異なる学生がチームを構成し、数か月フィールドに滞在して活動するものです。個人が中心であったこれまでのインターンシップとは異なり、グループ活動を通じてリーダーシップの養成を狙っています。新規の試みですが、『フィールド情報学』の教科書が日英で

出版されるなどの準備が行われてきています。
戦略的コミュニケーションセミナーは、コミュニケーション能力を強化するための短期集中型セミナーで、英語コースと日本語コースから構成されます。英語コースは、ベルリッツ・ジャパンと共同開発したもので、ベルリッツ・ジャパンの持つ豊富なコンテンツを濃縮し、英語によるプレゼンテーション、スピーキングなどの能力の強化を目指した実習です。日本語コースでは、(財)NHK放送研修センターと共同開発したもので、センターの持つコミュニケーションノウハウを濃縮し、スピーチ、ネゴシエーションなど、話す、伝える能力の強化を目指した実習を、センターのエグゼクティブ・アナウンサーが実施します。
デザイン学の学位研究の特長は、実問題の発見と解決を強く意識するところにあります。学位研究（修士研究、博士研究）は、専門領域の異なる複数のアドバイザによる指導体制（複数アドバイザ制度）の下で行われます。特に博士研究では、社会の実問題に挑戦するリーディングプロジェクト（共同研究講座、産学（官公民）プロジェクト、萌芽的プロジェクト）で、高度な専門性を要求する協働を通じて学位論文をまとめます。
その前段として、実社会をフィールドとして、内在する問題や社会的期待を抽出する問題発見型学習（FBL: Field-Based Learning）と、実社会の問題に対して、学生が自主的に解を見出す問題解決型学習（PBL: Problem-Based Learning）が行われます。共に、異なる専門領域の学生で構成するチームで取り組みます。
実習テーマの約半数は、教員が研究として取り組む実問題を実習化したもので、『再生可能エネルギーの普及』や『都市エリアの再設計』などの本格的なものです。他の半数は、企業、自治体、非営利団体、コミュニティなどから持ち込まれる実問題を実習化したもので、学生チームはテーマ提供者の協力を得て問題解決に取り組みます。
さらに、社会の実問題を発見し解決する実践的実習として、オープンイノベーション実習を体験します。これは、関係する専門家あるいはステークホルダーに依頼し、オープンイノベーションのためのチームを構成し、ワークショップを連続的に実施することで目標を達成するものです。学生の役割は、専門家として問題解決や問題発見に参加することではなく、オープンイノベーションのためのチームを構成しマネジメントすることです。これによって、コミュニケーション能力、マネジメント能力を鍛えるとともに、実践を通じてデザイン活動を成功に導くためのデザイン理論やデザイン手法を身に付けることができます。

履修ガイド(jp) (pdf)

©2014 Collaborative Graduate Program in Design, Kyoto University all rights reserved.

デザイン学大学院連携プログラム（2015年5月改訂版）